

# 四国遍路道研究会報告（第4回）

## 四国遍路みちにおける、「へんろ転がし」の工学的研究

四国遍路みち研究会

### ・那賀川水井橋（すいいはし）～第21番大龍寺の現地調査報告

（第10回現地調査 H24.12.1）

平成24年の年の瀬も押し迫った12月1日に現地調査を実施した。弘済会を7時に出発し、前回調査終点の阿南市水井橋に9時30分に到着。昔の渡船場跡が確認できる近くに、橋長160m、幅員3mの水井橋(昭和40年完成)がある。諸々準備完了後これを渡り若杉集落までは若杉山谷川のせせらぎに沿う。途中、今はすっかり杉林となってしまった、民家跡と思しき苔むした石垣沿いの道は、昔の生活がしのばれる少し寂しい風景です。道幅は軽自動車が行き通すのに支障は無く、奥に民家や田んぼがあり途中3回ほど車に遭遇しました。まさに、生活の道です。道の途中に休憩所があり、言い伝えによると、この対岸は弥生時代末期から古墳時代初頭にかけての水銀朱(辰砂)の採掘場跡である「若杉山遺跡」だそうで、この水銀朱は赤色顔料で各地の古墳の埋葬に使われたものだそうです。また、この休憩所近くの大師像の背後にはここらが主産地となっている石灰の巨岩が見もの。せせらぎに沿った林間道を抜けるところで、電話工事



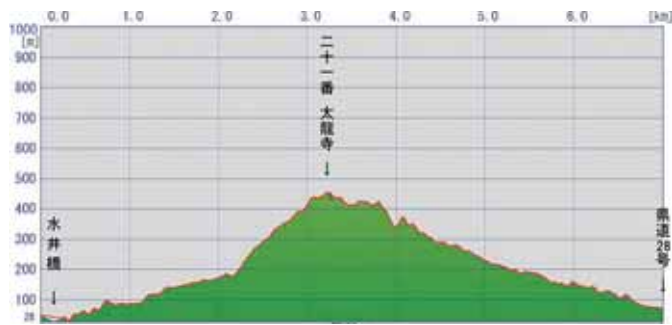
石灰石の巨岩

の人たちの作業現場と出くわす、そこには十六丁の丁石とコンクリートの橋を渡ったところに、明治7年の石灯籠と昭和11年製の新居田神社の鳥居がある。その先の一際日当たりの良



イノシシによる耕作

い田んぼがあり、それはきれいに耕されていた。通りかかった地元の人に、耕作の主はイノシシであることを聞き驚く。田んぼの中のミミズ等を探してきれいに耕やしているとのこと。この田んぼの先にイチョウの大木と十七丁石があり、ここから急登となり、「へんろ転がし」が始まる。木柵階段が2mステップで10段が数回続き、途中から



二十一番 太龍寺 縦断図



木柵階段の調査



5段の連続に変わりつつも階段や岩道等含めて、二十四丁ぐらいまでを「へんろ転がし」と判断した(約1.3kmで高低差250m平均勾配20%程度)。ここから太龍寺まで約0.5km、渡船場跡の水井橋から21番札所太龍寺まで約4時間掛かった。

境内は、遅れ気味の紅葉が蔓の触先を包み、気持ちの良い自然の中、しっかりへんろの安全を祈念いたしました。

そこからはロープウェイに乗らず、事務局手配車の駐車場へ下っていく。途中、有馬・鍋島と共に日本三大怪猫伝の一つとして名高い「お松大権現」の前を通過し那賀川沿いに南下し帰路に着く。



太龍寺手前参道の巨木